

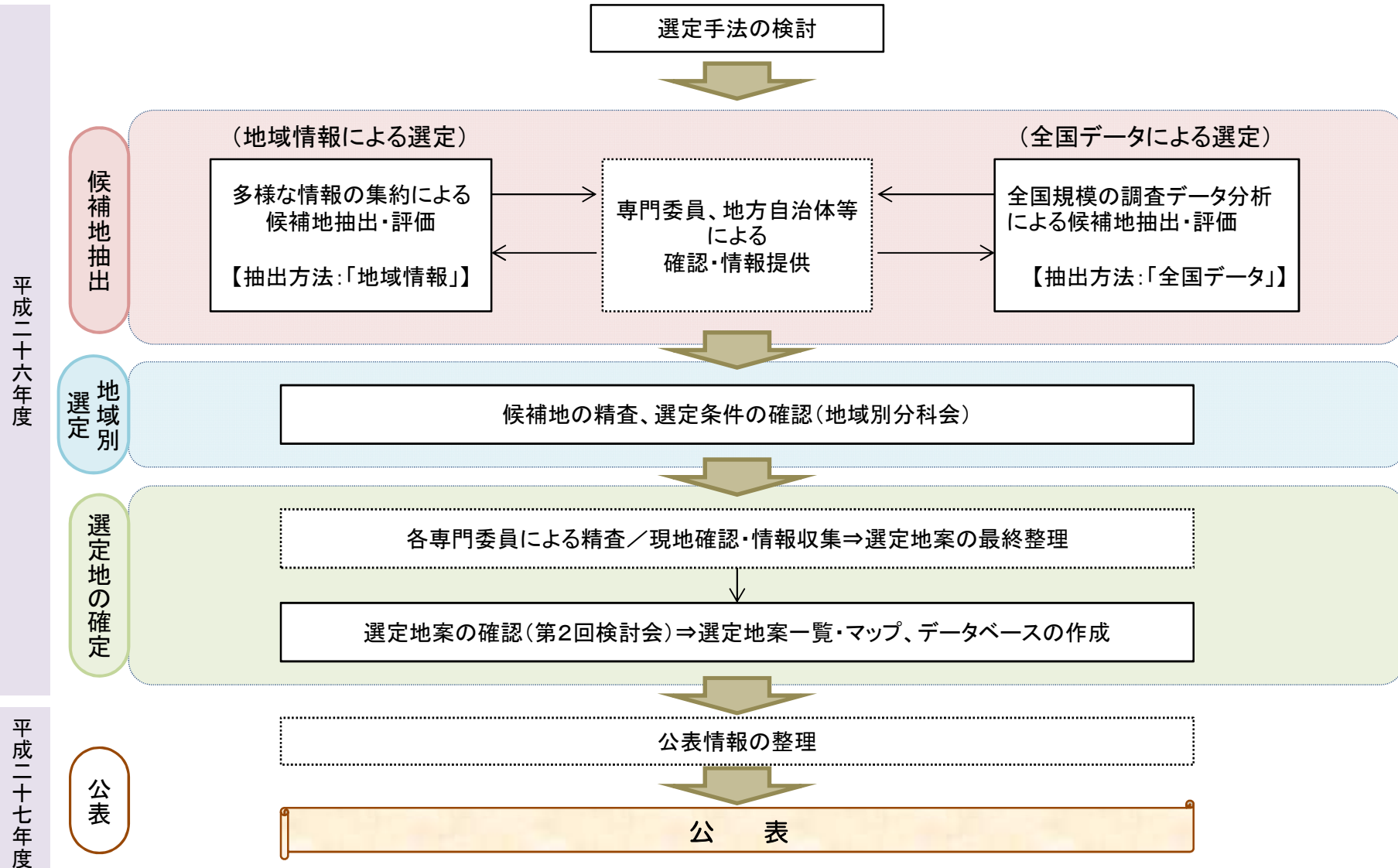
「生物多様性保全上重要な里地里山」 の選定について

環境省自然環境局自然環境計画課

平成27年2月26日

資料1-1 選定プロセス

選定にあたっては、社会状況とともにその姿を大きく変える里地里山の実態を捉えることが重要と考え、全国規模の既存調査データの活用、及び、全国一律のデータでは把握しきれない地域の現状にそくしたローカルな情報(以降、「地域情報」とする)により、できるだけ広く候補地を抽出することとした。抽出した候補地については、専門的知見の活用により生物多様性の状況の確認・評価を行い、科学的手法に基づき生物多様性保全上重要な地域を選定した。



資料1-2 選定の方法(①評価項目)

抽出した候補地について、生物多様性の観点から評価を行うため、以下の基準・指標を設定した。
各基準を満たす条件は、「基準ごとの指標のうちいずれかひとつでも該当」とした。

土地としての重要性・特異性をみるための評価軸

基準1: 多様で優れた二次的自然環境を有する

(基準の定義)

人との関わりによって維持されている、特異・希少な自然環境、ぜい弱性の高い自然環境であるか

人との関わりが深く土地利用の多様性の高い場所であるか

指標①小規模で脆弱な二次的自然地域

指標②二次草原

指標③氾濫原・谷津田等の低地・湿地

指標④土地利用のモザイク性

生物多様性の現状をみるための評価軸

基準2: 里地里山に特有で多様な野生動植物の生息・生育

(基準の定義)

多様な種が確保されているか

分布が限定的である種の保全に寄与しているか

指標⑤より多くの動物が生息

指標⑥より多くの植物が生育

指標⑦里地里山に依存性の高い動物が生息

指標⑧里地里山に依存性の高い植物が生育

生態系ネットワーク構築にかかる評価軸

基準3: 生態系ネットワークの形成に寄与する

(基準の定義)

生態系ネットワークの形成に寄与しているか

指標⑨生態系ネットワーク形成において重要

資料1-2 選定の方法(②地域情報による選定のための評価方法・選定条件)

＜各地域の地域情報による評価・選定＞

右記の観点のもと、多様な情報を集約して候補地抽出を行い、指標等に関わる地域情報を整理した。それらについて、指標への該当状況、評価方法を検討し、選定条件を満たす地域を選定地として整理した。

詳細については、以下のとおり。

◆抽出◆

里地里山と関わりの深い右記のデータ(関連データ)等を参考に、専門委員による情報提供のもと、生物多様性の観点から候補地の抽出を行った。

その他、生物多様性の観点から活用可能と考えられるデータ(右頁表内「◎」)をもとに、候補地を補完した。

また、全都道府県を通じて地方自治体への確認・情報提供を踏まえ、候補地の追加を行った。

◆評価◆

抽出した候補地の地域情報をもとに、指標への該当状況を整理し、地域別分科会での議論を踏まえ、各指標の評価方法を決定した。(別紙「参考①」参照)

◆選定条件◆

複数の視点で重要性をみることとし、3つの基準のうち、2つ以上の基準に該当する地域を対象とした。

ただし、選定条件を満たす地域情報が確認できなかった場合でも、全国的に見て重要(選定すべき)という地域は「特別枠」として選定することとした。

特別選定枠の考え方

- * 動植物の生息生育状況から重要
- * その他、生物多様性保全の観点から重要
ex. 保全の緊急性、モデル性、生物多様性保全の取組実績など

(地域情報による抽出の主な観点)

- * 生物多様性の豊かな地域である
- * 生物多様性に配慮した取組が行われている
- * 各委員の専門分野(生態系、動植物生態、景観、地域振興、政策など)から見た重要地域である
- * 保全活用の手法として他地域の参考になる取組が行われている

(関連データ一覧)

外部評価の有無 (地域の励みになっているもの、継続的にモニタリングが行われるもの)	地方自治体による選定地、生物多様性地域戦略による指定地域 (地域計画:山形県・東京都・神奈川県・福井県・大阪府・長崎県、地域戦略:石川県、福井県、三重県、佐賀県、柏市、岡崎市、神戸市、宝塚市、西宮市、北広島町)	◎※
	ラムサール登録湿地	◎
	世界農業遺産	◎
	モニ1000里地調査(コアサイト)	◎
	重要文化的景観(文化庁)	◎
	にほんの里100選及び関連情報(朝日新聞社)	◎
	日本の棚田百選(農林水産省)	◎
	ため池百選(農林水産省)	◎
	プロジェクト未来遺産(日本ユネスコ協会連盟)	◎
活動主体の有無	特徴的な取組事例(環境省)(環境省モデル事業地区含む) (環境省「事例集 自然と共に生きるにぎわいの里づくり」144事例)	◎
	モニ1000里地調査(一般サイト)	◎
	里地里山の活動フィールド分布(1023地点) (環境省・日本自然保護協会調査結果(2001)より)	◎
	田園自然再生活動コンクール	◎
	ニッポンの里山(NHK BSプレミアム)	◎
(学術的な視点等から抽出された地域)	「伝統的な土地利用により形成された注目すべき二次的自然(里山二次林生物群集/谷津田生物群集/ため池群生物群集/二次草原生物群集)」 (「生物多様性保全のための国土区分」検討時(H9)の「重要地域」で、研究者や都道府県等アンケート調査で情報収集し、参考文献等で補完し整理された地域(種別C))	◎
	「昆虫類の多様性保護のための重要地域」	◎
	「重要野鳥生息地(国内IBA)」	◎
	「生物多様性保全を目指す里地里山地域」((公財)大阪みどりのトラスト協会)	◎

※ラムサール登録湿地は、里地里山に特徴的な種の生息生育が確認されるものについて、その周辺の里地里山環境を含め候補地とした。

資料1-2 選定の方法(③データ分析による選定のための評価方法・選定条件)

<全国規模の既存調査データによる評価・選定>

右表のとおり全国規模の調査等に基づくデータを活用し、データ分析を行い候補地を抽出・評価した。分析結果をもとに選定条件を設定し、選定地として整理した。詳細については、以下のとおり。

◆抽出・評価◆

全国の植生図から見た里地里山地域のメッシュデータ(右表「基本データ」)をベースとし、指標項目ごとに指標データ(右表「全国一律評価のための指標データ」)の該当状況を整理。

該当する場合を「得点1」、しない場合を「得点0」とし、指標①～⑨の項目の得点を合計して評価した。

すなわち、多くの評価指標に該当する地域を、「生物多様性保全上重要度が高い里地里山」と判断した。

◆選定条件◆

指標①～⑨の合計値を評価点とし、高得点(6点以上)のメッシュを含む地域を対象とした。

情報収集・現地調査によって、候補地の現状を確認のうえ、選定地を決定した。

◆使用データ◆

基本データ	備考
里地里山メッシュ	植生図から見た里地里山地域の分布
小規模な二次草原	全国規模で正円1ha以上の小規模二次草原を事務局にて抽出

【指標】 全国一律評価のための指標データ	備考
【指標①小規模で脆弱な二次的自然地域】 生物多様性評価地図「小規模で開発等に対して脆弱な生態系を有する地域」	重要湿地は除く。
【指標②二次草原】 全国規模で正円1ha以上の小規模二次草原を事務局にて抽出	
【指標③氾濫原・谷津田等の低地・湿地】 土地分類基本調査「土地分類メッシュ:低地(扇状地性低地・三角州性低地・氾濫原性低地)」	
【指標④土地利用のモザイク性】 国環研「日本全国さとやま指数メッシュデータ」	過年度に自然環境の観点から整理された里地里山地域(地方自治体の計画等により指定、伝統的な土地利用により形成された注目すべき二次的自然(H9環境省※試算)の平均値「0.3」以上を評価対象とした。
【指標⑤より多くの動物が生息】 生物多様性評価地図「全ての日本固有種(脊椎動物)の効率的な保全に寄与する地域」	各種の効率的な保全に寄与する地域(解析試行による選択回数「100回」のみ)のメッシュを対象とした。
【指標⑥より多くの植物が生育】 生物多様性評価地図「全ての絶滅危惧種(維管束植物)の効率的な保全に寄与する地域」	各種の効率的な保全に寄与する地域(解析試行による選択回数「100回」のみ)のメッシュを対象とした。
【指標⑦里地里山に依存性の高い動物が生息】 生物多様性評価地図「分布域が限定される絶滅危惧種の確認種数(動物)」	対象種が1種以上確認されるメッシュをすべて対象とした。
【指標⑧里地里山に依存性の高い植物が生育】 生物多様性評価地図「分布域が限定される絶滅危惧種の確認種数(維管束植物)」	対象種が1種以上確認されるメッシュをすべて対象とした。
【指標⑨生態系ネットワーク形成において重要】 オオタカ・サシバの生息地(平成20年全国エコロジカル・ネットワーク構想の検討より)	

資料1-3 ①選定結果概要

これまでにとりまとめた選定地案の結果については、以下のとおり。
選定地数は、公表情報の整理状況に応じて、今後変更の可能性はある。

【選定地案】

計 543 件 ※詳細については、「資料1-3 ④都道府県別集計表」参照

【選定地案の特性】 ※詳細については、「別添資料 選定地案の集計結果」参照

- 大半の選定地案は、選定基準1及び2を満たしており、基準3を満たすものは約3分の1であった。
- 選定地案は、地方(クラスター)別※1、生態系タイプ分類別※2からみて、ほぼまんべんなく分布している。
- 選定地案のうち、自然公園指定地(国立・国定公園、都道府県立自然公園)は、およそ3割を占めており、その他、自治体独自の指定(自然環境保全地域、里山環境保全地域など)が行われている地域も1割程度含まれている。
- 選定地案のうち、35%が都市近郊※3に位置しており、近郊緑地帯あるいは都市公園といった地域が選定されている例もみられた。
- 選定地案のうち、全体の63%(関係自治体等が保全活用状況を把握している地域の9割以上)は生産活動や環境教育など、何らかの形で保全活用が行われている地域であった。
ただし、未回答も含め、全体の約3割は保全活用状況が把握されていないという結果であった。(※4)
- 選定地案について、最も緊急性の高い課題として回答が得られたもののうち、上位を占める課題は、以下のとおり(回答の多い順に記載)。(※4)
 - * 生物多様性の減少・消失
 - * 地域の活力低下
 - * 耕作放棄地・放棄林等の増加
 - * 野生鳥獣との軋轢の深刻化

※1 「クラスター」について

- ・日本の里山・里海評価委員会(JSSA)の「日本における里山・里海サブグローバル評価(SGA)」において、全国の里地里山を、南北(気象条件の違い)と人口密度(大都市近辺と過疎地)の2軸で整理し、5つの地域に分けたもの。
- ・以下の分類は、上記をもとに、事務局判断で行った。

「クラスター」(各クラスターに分類した都道府県)
「北海道クラスター」(北海道)
「東北クラスター」(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)
「北信越クラスター」(新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県)
「関東中部クラスター」(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県)
「西日本クラスター」(三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

※2 「生態系タイプ分類」について

- ・わが国の里地里山を、骨格となる二次林のタイプによって、以下の6つのブロックに区分したもの。
- ①ミズナラ林タイプ、②コナラ林(東日本)タイプ、③コナラ林(西日本)タイプ、④アカマツ林タイプ、⑤シイ・カシ萌芽林タイプ、⑥その他(シラカンバ等)
- ⇒沖縄県の選定地は⑥タイプとして分類

※3 「都市近郊」について

- ・「人口集中地区(DID)とその周辺5kmの範囲内にある里地里山」と定義(平成20年度調査における立地タイプ区分による)。

※4 「保全活用状況」「最も緊急性の高い課題」について

- ・関係自治体等による候補地の確認を行った際に、『候補地(里地里山)の現状・課題等』として選択回答形式で聞き取りを行い、その結果をまとめたもの。
- ・一部、回答が得られなかったものについては、「未回答」として整理。

資料1(参考①) 地域情報による選定のための各指標の評価方法

指標	評価方法		地域別分科会で得られた主な意見
指標① 小規模で脆弱な二次的自然地域	★右記の地域情報について評価	・規模が小さい希少な生態系（社寺林等の自然性の高い残存林、農業用ため池・水路、小規模なため池、河畔林など）	—
指標② 二次草原	★右記の地域情報について評価	・二次草原（比較的広大な二次草地、ヨシ原、採草地、放牧地含む） [採草、火入れや放牧などの直接的あるいは間接的な人為的干渉が繰り返し加えられることによって成立、持続する植生]	—
指標③ 氾濫原・谷津田等の低地・湿地	★全国データ(土地分類基本調査)+右記の地域情報で評価	・扇状地、三角州、氾濫原 ・人が関わることで維持されている湿地・湿原（谷津、谷地、フケ、ウダ等）	・小規模湿地は、人との関わりがある所を重視した方がよい。 ・谷津・谷戸等の環境は保全活用の重要性が高い。 ・湿地の中でもとくに危機的なのが、丘陵地の湧水湿地、氾濫原湿地。ただし、これらは土地改良によって消失している場合も多いため、最新の情報をピンポイントで拾っていくより方法がない。 ・地元に湿地という認識がなくても、過去に湿地だったところで価値のある場所もある。
指標④ 土地利用のモザイク性	★全国データ(「日本全国さとやま指数メッシュデータ」)による評価	・農地を中心としてさまざまな環境が入り交じる里地里山地域を、Satoyama Indexという指標で示したもの ・少なくとも一部に農地を含む単位空間内の土地利用多様度と非農業的土地利用の割合を反映させた指数であり、土地利用の不均一性が高いほど、また農地の占有率が低いほど高い値をとる ・ここでは、過年度に自然環境の観点から整理された里地里山地域の平均値「0.3」以上を評価対象とした	・個別地域の環境要素(農地、二次林等)で評価する場合、候補地のスケールを大きくするほど評価されてしまうことになるため問題。 ・里地里山のモザイク性の研究論文からは、およそ1～4haをピークに里地里山のモザイク性は低下するということが分かっているため、規模を考慮することは重要で、調査データ「さとやま指数(最小10m解像度のデータで算出)」を活用した方が、より正確な評価ができると思われる。
指標⑤ より多くの動物が生息	☆地域情報では評価しない	※候補地によって情報のレベルの差が非常に大きく、本選定においては適切な評価ができないデータであると判断。	・「多様であること」を評価するため複数種いることが前提となるが、里地里山に特徴的な種をカウント対象とする場合、あまり設定数を高くすると評価できる地域が極端に減るかもしれない。 ・良好な里地里山には、特徴的な動物ははじめ多くの種が生息するかもしれないが、「特徴的な動物が生息すること＝良好な里地里山環境・より多くの種が生息」ということにはならない。曖昧な情報で評価するほどなら、全国規模の調査データを活用する方がよい(データのスケールが大き過ぎる点は気になるが)。
指標⑥ より多くの植物が生育	☆地域情報では評価しない	※候補地によって情報のレベルの差が非常に大きく、本選定においては適切な評価ができないデータであると判断。	・地域的な偏りが懸念されるため、「里地里山に特徴的な植物」で全国一律に評価することはやめた方がいい。 ・植物の多様性の評価は、土地利用のモザイク性、動物の生息状況でカバーしているともいえる。こうした関連性を踏まえ、個別の指標として評価しないという方法もあるのでは。
指標⑦ 里地里山に依存性の高い動物が生息	★右記の地域情報について評価	・「里地里山に特徴的な種」、「絶滅・準絶滅危惧(国)」「天然記念物(国、都道府県、市町村)」「北限・南限」等の希少種が生息 ・サシバ・オオタカが生息<特別指標種として設定>	・サシバ・オオタカは里地里山保全、餌となる小動物等の生息において、全国的に重視すべき種(アンブレラ種)であるため、「里地里山の特別指標種」としても評価できるようにした方がよい。 ・西日本であれば、カスミサンショウウオ、アユモドキの生息地はとくに重視すべき。
指標⑧ 里地里山に依存性の高い植物が生育	★右記の地域情報について評価	・「里地里山に特徴的な種」、「絶滅・準絶滅危惧(国)」「天然記念物(国、都道府県、市町村)」「北限・南限」等の希少種が生育	・絶滅危惧種も、本当は固有種で原生環境の絶滅危惧種なのか、環境の影響で移動してきた絶滅危惧種なのか重要。
指標⑨ 生態系ネットワーク形成において重要	★右記の地域情報について評価	・サシバ・オオタカが生息 ・生きものの生態の視点から見たつながりを確保している、生態系の視点から見たつながりを確保している(森・里・川・海の連関、里海・里湖等とのつながり等)、渡り鳥の中継地点、緑・森・水など生き物の移動のための回廊など	—

■候補地整理にあたっての考え方(地域別分科会を踏まえた決定事項)

【全般】

- ・全国データで「里地里山メッシュ」の対象外となる地域の扱いについて(山地・山麓部、市街地、整備された都市公園・国営公園、メッシュ抽出の際に対象外となった小規模な土地利用など)
⇒現地確認等により、生物相や他地域とのつながり等、専門的知見のもと当該地域の生物多様性を評価。
- ・広範囲をエリアとする候補地の扱いについて
⇒対象地内の生態系・自然条件等の違いを考慮し、一体とするか、別々の候補地とするかを判断。
- ・同じ行政区(市町村)の中で複数候補地がある場合も、それぞれの里地里山の特徴、特色を尊重した選定とする。(個々の選定地を農業政策や林業政策の面から統合するなどの展開は各自治体の任意)
- ・現地確認等から、「里地里山として適当でない」と判断できる場合は、候補地から除外。

【地域別の特性】

★北海道の重要里地里山選定の観点

- * 自然の営みに人の営みが加わって維持されてきた地域
- * 里地里山的環境を活かした生態系ネットワークへの配慮
- * アイヌ文化の継承(伝承)
- * 開拓史以降の新しい形の自然と人との共生(モデル)

【動植物の生息生育状況から重要な地域(特別選定枠)について】

全国調査によるデータ(自然環境保全基礎調査等)を活用し、動植物の分類群ごとに、里地里山に特徴的な動物種にとって重要な地域の分析を実施。過年度調査の結果を種ごとに重ね合わせ、継続的あるいは比較的新しい調査によって確認された種が多い地域を、良好な里地里山として高得点で評価できるよう配点・集計した。データ分析の結果をもとに各分野の専門委員の意見を踏まえ、以下を特別選定枠とした。

鳥類: データ分析の結果から高得点(10点以上)地域は、原則「里地里山に特徴的な鳥類にとって重要な地域」とする。

(自然環境保全基礎調査に加え、モニ1000森林・草原調査陸生鳥類調査(2005~2012)の結果を活用)

昆虫類: データ分析の結果から上位(ベスト10)地域は、原則「里地里山に特徴的な昆虫類にとって重要な地域」とする。

両生類: データ分析の結果から上位(ベスト3)地域及び上位地域と隣接する場合は、原則「里地里山に特徴的な両生類にとって重要な地域」とする。

哺乳類: 各地域で留意すべき種を決め、それらの種の分布データと重なる(隣接する)場合は原則「里地里山に特徴的な哺乳類にとって重要な地域」とする。

その他: 西日本地域では、カスミサンショウウオ、アユモドキの生息地を重視する。

◇地域別分科会での主な意見◇

＜対象地の捉え方＞

- ・都市域の公園は、周辺の自然環境とのつながりを考慮する。
- ・生態系のまとまりは面的に広く捉え、行政の枠を超えて、一体的な里地里山として選定しておく方がよい。(選定後の広域連携の取組を期待)
- ・エリアを絞る場合は、生態系の機能に着目した方がよい。
- ・エリアを分ける場合は、地形に着目することも一案。
- ・かつては利活用も見られた場所でも、現在そうした動きがほとんどみられない場所は、選定地としてはふさわしくない。

＜特性を踏まえるべき地域＞

(北海道)

- ・歴史的に、北海道は和人が入ってまだ日が浅い。「自然と人との共生」というならば、アイヌの文化にも目を向けるべき。ただし、一般的な里地里山の伝統技術・文化という点から考えると同じとはいえない。そうした点から言えば沖縄も同じで、里地里山というより「里地里山的」という方が適切かもしれない。
- ・山の使い方(東北のような燃料・肥料等の多面的利用、共同管理)から考えると、北海道は里地里山に該当する場所はほとんどないかもしれない。里地里山はノラ(生業・生活)とのつながりが重要であり、北海道ならではのつながりがあれば、そうした地域を選定してもよいのでは。
- ・歴史的には浅くても、かつて薪炭林としての利用があり、現在も生物多様性に配慮した適切な維持管理が行われている地域など、もともとあった自然と人と営みの合作で維持されているような地域は選定したい。

(その他)

- ・降雪地域は、手を入れなくても雪によって生態系が保全されている部分と、水路やため池など人が手を入れることで保全される部分とがある。雪圧で維持されている地域を、里地里山として評価すべきが悩ましい。
- ・奄美大島(加計呂麻島含む)は、生態系・自然条件、人と自然の関わりの歴史から考えて全域ほぼ同じ価値があり、世界的な生物多様性ホットスポットでもある。※どこか一部のみを選定できる地域ではない。

＜その他＞

- ・生態系ネットワークの形成、地域活性化のきっかけという選定の趣旨を考えた場合、より多くの里地里山が選ばれることが重要。今回選定されなかった場所についても、「生物多様性保全上重要な里地里山ではない」という認識を持たれては困るし、今後の調査等によって選定地としてふさわしい場所になる可能性も十分ある。
- ・里山が大事だという意識が高くなっていることに乗っかることが大事で、里山が身近になる材料としてこの選定を使えるといい。絞り込む選定というより、公表されることによって国民の意識向上につながることを期待したい。
- ・この選定を後盾として求めている自治体もあり、また今回の選定で設定した基準・指標を明らかにすることで、今回拾いあげられなかった地域からも声があがってくるかもしれない。

資料1-3 ④都道府県別選定地案集計表（地域情報による選定地+データ分析による選定地）

		全候補地	選定対象の候補地小計					
			(全国データによる候補地 および地域情報による候補地のうち、高評価か特別枠のもの)	全国データによる候補地	地域情報による候補地			
					(選定基準を満たす候補地)	(選定基準以下だが特別枠として選定される候補地)	(その他の候補地)	
		785	543	61	724	446	36	242
北海道	(県別内訳)							
	北海道	25	6	0	25	6	0	19
東北地域	青森県	9	7	0	9	7	0	2
	岩手県	20	12	0	20	12	0	8
	宮城県	14	11	1	13	9	1	3
	秋田県	8	5	0	8	5	0	3
	山形県	26	24	0	26	23	1	2
	福島県	16	12	0	16	11	1	4
北信越地域	新潟県	29	21	0	29	20	1	8
	富山県	7	4	0	7	4	0	3
	石川県	18	14	0	18	14	0	4
	福井県	16	14	1	15	13	0	2
	長野県	44	23	5	39	16	2	21
関東・中部地域	茨城県	11	9	0	11	8	1	2
	栃木県	14	11	2	12	9	0	3
	群馬県	8	6	0	8	6	0	2
	埼玉県	14	12	0	14	12	0	2
	千葉県	20	18	0	20	17	1	2
	東京都	20	10	1	19	9	0	10
	神奈川県	36	20	0	36	17	3	16
	山梨県	14	6	0	14	5	1	8
	岐阜県	15	9	4	11	5	0	6
	静岡県	16	10	0	16	10	0	6
	愛知県	14	11	2	12	9	0	3
近畿地域	三重県	6	5	1	5	3	1	1
	滋賀県	20	19	8	12	11	0	1
	京都府	16	14	1	15	12	1	2
	大阪府	25	21	0	25	21	0	4

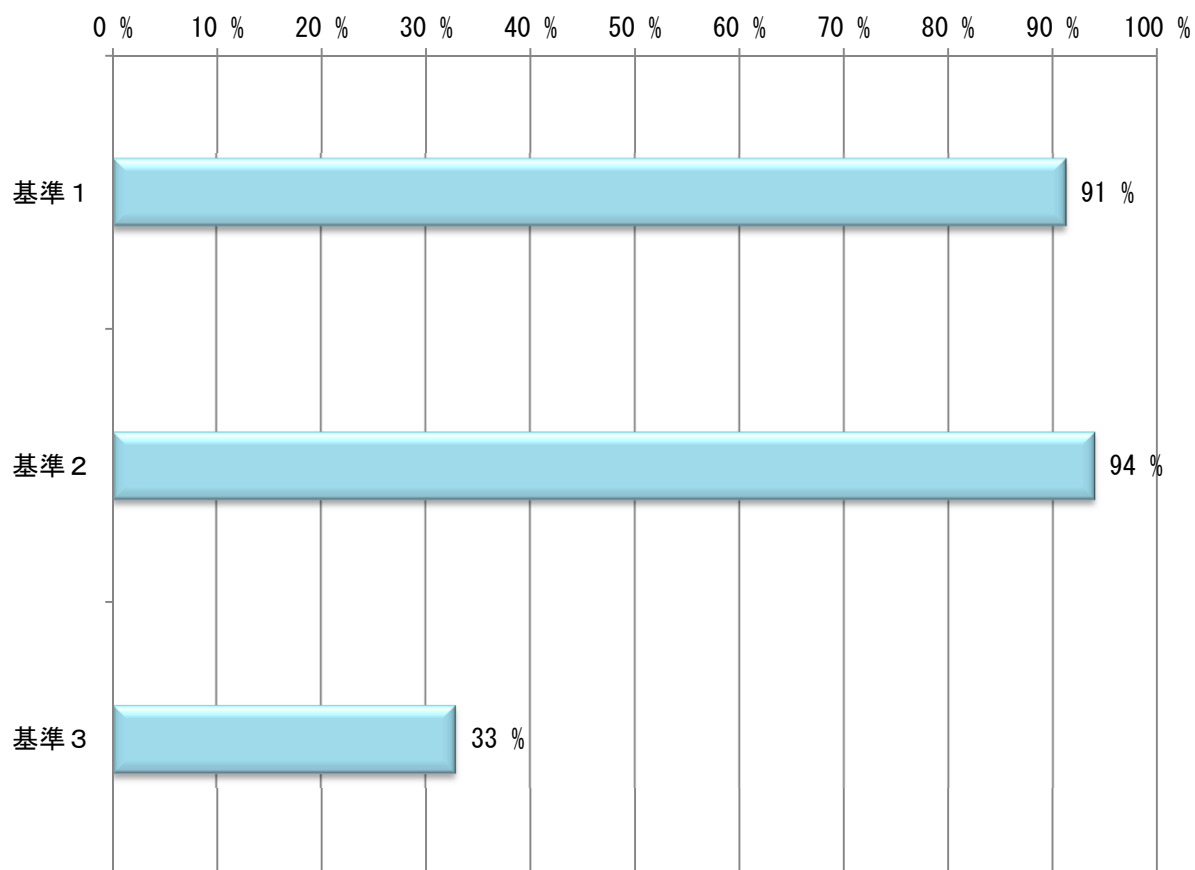
	全候補地	選定対象の候補地小計					
		(全国データによる候補地 および地域情報による候補地のうち、高評価か特別枠のもの)	全国データによる候補地	地域情報による候補地			
				(選定基準を満たす候補地)	(選定基準以下だが特別枠として選定される候補地)	(その他の候補地)	
兵庫県	33	25	0	33	23	2	8
奈良県	11	6	0	11	6	0	5
和歌山県	7	3	0	7	3	0	4
鳥取県	20	11	1	19	10	0	9
島根県	10	9	0	10	8	1	1
岡山県	22	21	6	16	15	0	1
広島県	15	14	4	11	9	1	1
山口県	12	7	2	10	5	0	5
徳島県	14	13	4	10	9	0	1
香川県	6	4	2	4	2	0	2
愛媛県	8	5	0	8	4	1	3
高知県	14	10	3	11	2	5	4
福岡県	10	5	2	8	3	0	5
佐賀県	13	9	0	13	9	0	4
長崎県	36	18	0	36	16	2	18
熊本県	7	7	1	6	4	2	0
大分県	12	7	0	12	6	1	5
宮崎県	11	8	0	11	7	1	3
鹿児島県	16	9	3	13	5	1	7
沖縄県	18	12	7	11	1	4	6
複数県	9	6	0	9	5	1	3
(クラスター別集計)							
北海道	25	6	0	25	6	0	19
東北	93	71	1	92	67	3	22
北信越	114	76	6	108	67	3	38
関東中部	182	122	9	173	107	6	60
西日本	362	262	45	317	194	23	100
その他(複数県にまたがる候補地)	9	6	0	9	5	1	3

西日本地域

注※選定数は、公表情報の整理状況に応じて今後変更の可能性がある

別添資料 選定地案の集計結果

各選定基準への適合状況（割合）

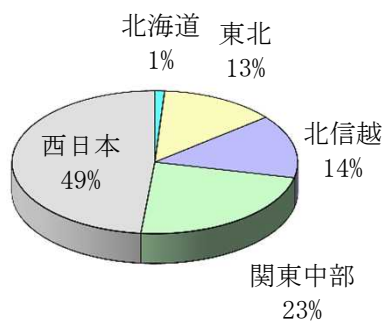


n=543

凡例

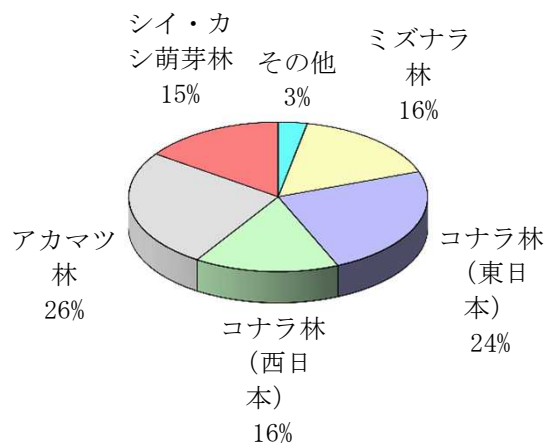
- 基準 1 多様で優れた二次的自然環境を有する
- 基準 2 里地里山に特有で多様な野生動植物の生息・生育
- 基準 3 生態系ネットワークの形成に寄与する

クラスター別



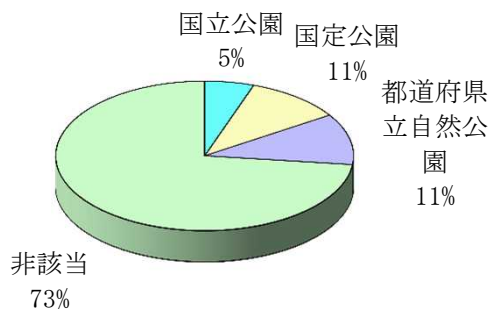
n=543

生態系タイプ分類



n=543

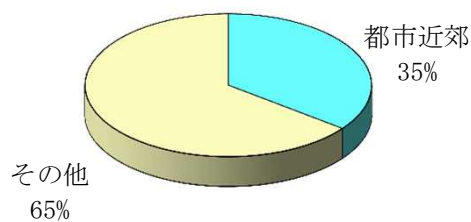
自然公園指定状況



n=543

立地

※人口集中地区より5km圏内

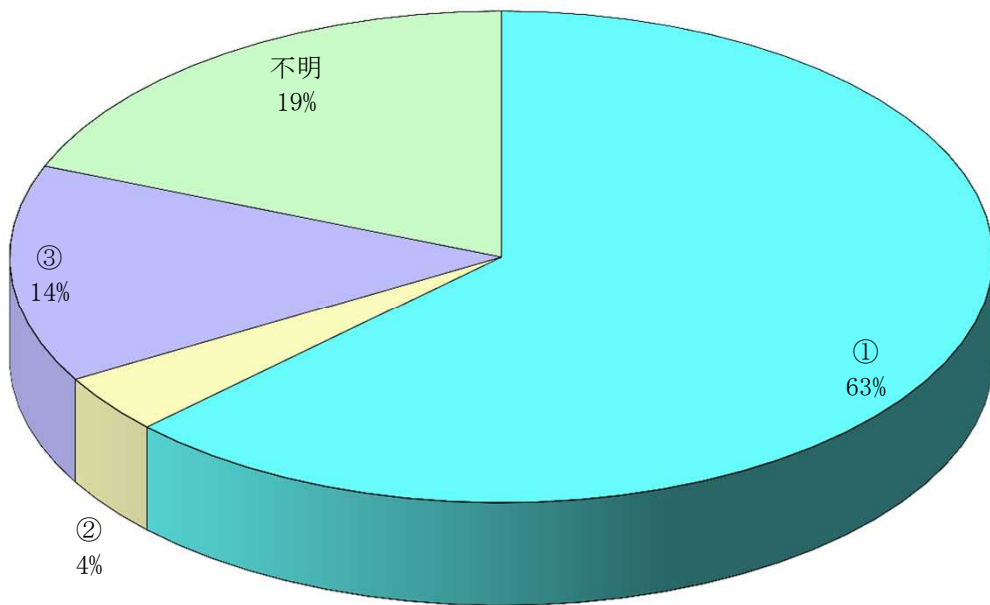


n=543

※人口集中地区（総務省統計局より）

1) 原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境界内で互いに隣接して、2) それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域

保全活用状況（割合）



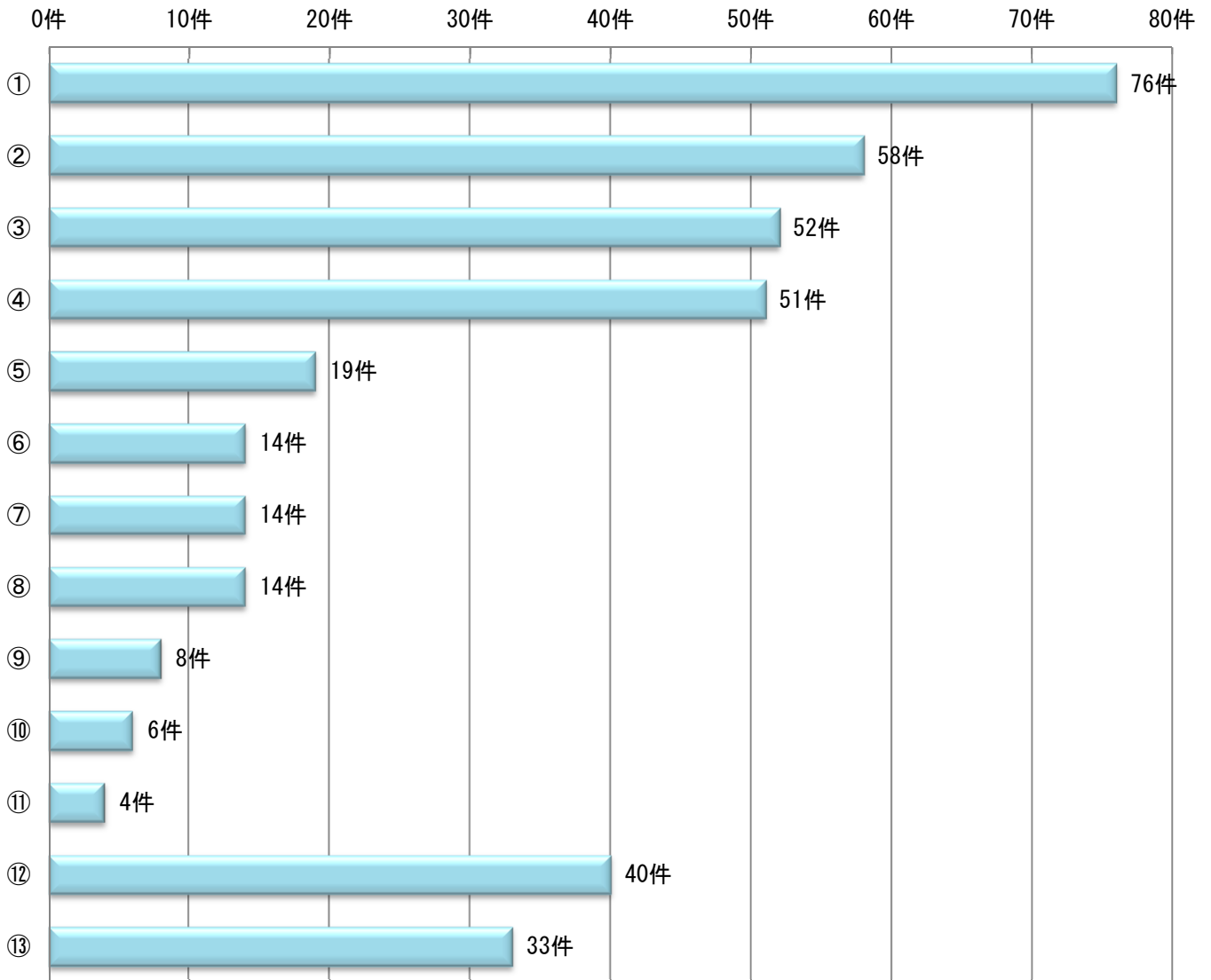
n=543

凡例

- ① 農林業等の生産活動、動植物・景観保全、環境教育、身近な自然とのふれあいの場などとして保全活用されている
- ② 人との関わりが薄れている（ほとんど利活用されていない）
- ③ 把握していない

最も緊急性の高い課題

n=389



凡例

- ①生物多様性の減少・消失
- ②地域の活力低下
- ③耕作放棄地・放棄林等の増加
- ④野生鳥獣との軋轢の深刻化
- ⑤都市化、開発等による里地里山の消失
- ⑥良好な景観の荒廃

- ⑦地域の歴史・文化等伝承の途絶
- ⑧ゴミの不法投棄
- ⑨身近な自然とのふれあい、環境教育の場の減少
- ⑩産物生産量の減少
- ⑪国土保全機能の低下
- ⑫把握していない
- ⑬その他